



23日(火) クラスマッチを開催しました。

天気に恵まれました。男子はサッカー、バレー。女子はバスケ、バレーを実施しました。



24日(水) 2学期終業式を行いました。

9月当初の暑さが嘘のようです。これまでの「串高通信」のバックナンバーを読み返し、いろいろなことがあったなあと振り返りながら、今年の最終号を作成しています。

改めて、串高の教育プログラムの多さに驚かされます。ほとんど毎週「何らかの行事が入っている！」。それらの目的は、すべて、生徒たちの成長のきっかけ作りです。事後の単に「よかったです」「楽しかった」という感想だけで終わらせてはいけないと考えます。

今年度、生徒たちに「学びのアルバム」なるものを作らせました。一つ一つの行事を通して気づいたこと、考えたこと、そして今後どうしていきたいかのということを振り返らせ、綴らせてています。1年生であれば、3年間でどのくらいの厚みのアルバムになるのでしょうか。

「気づく目、考える頭、動かす手」……今から30年以上も前のこと、教育実習の際に聞いた言葉です。前の2つがないと、「動かす手」だけになります。ますますAIが台頭してくる時代の流れの中で、「動かす手」だけの人間はどうなってしまうのか、およそ想像はつきます。

第1段階の「気づく」というのは、自分の外側にある様々な「もの」・「こと」を何かのきっかけで改めて認知することです。「外側の世界」と「自分」とを仲介する「ことば」に対してもっと敏感になれば、この子たちはもっともっと伸びる！と思います。校長講話では、こんな話をしました。

- 自分の中で、今年最も印象に残った言葉は何か。名言でもいいし、心の支えになった言葉でもいいし、逆に、傷ついた言葉、不愉快な気持ちになった言葉でもかまわない。
- できることなら、その言葉を自分の中でポジティブに化学反応させて、新しい自分を作るきっかけにしてほしい。そういう振り返りは、年末というこの時期だからこそできる。
- 日常的に、私たちは相手を意識し、言葉を考え、選んで、発している。
- 逆に、受ける側になった時には、言葉の中にある発言者の意図、根拠を正しく拾わなければならぬ。キヤツチボールのようなものだが、投げることばかり考えがちでは？
- 現に、SNSに見られるような発信者に対する一方的な非難や炎上の例も……。適切な受け止め方ができないからこういうことになる。
- 「言葉を受け止める」際には……発言者、発信者への関心、理解を試みよう。あと、自分の世界を広げようという気持ちを持つ。受け止め方に悪意があったり、受け止めようという気がなかったりだと、自分の世界は広がらない。
- この世にありふれた言葉の中に、自分にプラスに働くものが必ずある。それを見つけ出し、生きるエネルギーに変えていくのです。「未来と自分は変えられる」のです。

終業式の前に、表彰もしました。

すごい数でした。のべ45件！表彰を逃した人も含め、チャレンジした全ての生徒に敬意を表します。



各ご家庭におかれましては、どうかよいお年をお迎えください！

この一年、本校教育活動にご理解・ご協力いただき、ありがとうございました。(文責 立森)